

知・技の創造 ものづくり大学発

▷90◁

政府は本年5月に新型コロナウィルス感染症の位置付けを「2類相当」から「5類」に移行するとしており、私たちの生活におけるコロナ対策も一つの転換点を迎えるようになっています。2020年に入ってから入っているものとして「超スマート世界中で新型コロナウィルス感染症が拡大して以降「ポ

ストコロナ」や「ニューノーマル」といった言葉を用いて、新しい教育環境の創出にまつわる議論がさまざまな場面でされてきました。とりわけ、デジタルを活用したグローバル化、地方創生、リカレント教育、大学間連携といったキーワードが活発に議論されて

ciety 4.0)に続く新たな社会の担い手になるためには、幅広い学びが必要で、それぞれの専門分野の学びはもちろん、コミュニケーション能力や協調性といった人間力を育むことが必要不可欠

佐々木 昌孝 建設学科教授

ポストコロナと大学間連携

欠であり、それは言い換えれば、他者を理解し、尊重できる能力なのかもしれません。私がいま所属しているものづくり大学では、隣接する羽生市の埼玉純真短期大学と、加須市にある平成国際大学との間で連携協力協定を締結しています。このように複数の



初予算は「ポストコロナ元年」持続可能な発展に向けてと名付けられました。10年先、20年先を見据え、埼玉世代の担い手になってくれる県の持続可能な発展に向けて、ことを願っています。

ささきまさたか 1973年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科(建設工学専攻)博士後期課程。博士(工学)。2020年4月より現職。専門は木材加工、日本建築史。

の礎を築いていく」という決意が込められているそうです。その具体的な取り組みの中には、資源のスマートな利用、ゼロ・カーボン社会に向けた取り組みも含まれています。「木材」を使った模範保育室と屋外キッズハウスプロジェクトは、森林と木材利用がカーボンニュートラルに貢献できることの学びに通じるものです。学生たちがそのことを深く考えるのは、あるいは卒業後かもしれないが、大学間連携によって他者を理解することを学んだ若者たち